

全国の火山活動状況（1989年1月～8月）

気象庁地震火山部
地震火山業務課火山室

気象庁が常時監視を実施している18火山とその他の火山について、1989年1月から8月までの活動状況を、この期間に得られた情報をもとに要約した。

全国火山活動状況を第1表に、火山情報発表状況を表2に示す。

第1表 全国火山活動状況（1989年1～8月）

Volcano	Month							
	1	2	3	4	5	6	7	8
Asosan			●	●	●	●	▲	▲
Sakurajima	▲	▲	▲	▲	▲	●	▲	▲
Izu-Oshima	●	●	●	●	●	●	●	●
Meakandake				●				
Tokachidake	▲	▲	▲	●	●	●	●	●
Kusatsu-Shiranesan	●							
Niigata-Yakeyama			●	●	●	●	●	●
Suwanosejima			▲			▲		
Fukutoku-Oka-no-Ba	●	●	●	●	●	●	●	●
East off Izu Peninsula							▲	●
Yakeyama (Ivan Grozny)					▲	▲		▲

▲ : Eruption ● : Anomaly

第2表 火山情報発表状況（1989年1月～8月）

火山名	桜	阿	浅	伊	雌	十	樽	有	北	吾	安	磐	那	草	御	三	雲	霧	新	伊
情報	島	蘇	間	豆	阿	勝	前	珠	海	妻	達	太	梯	須	白	宅	仙	島	瀧	豆
期	8	8	8	8	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	0	0
時	2	14	0	2	0	活 臨 ³ 31	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	6
定																				
臨																				

(注) 活は活動情報、臨は臨時情報

桜 島（鹿児島地方気象台）

月別の活動の推移は第3表のとおりである。

第3表 桜島観測資料

月	1989/1	2	3	4	5	6	7	8
噴火回数	5(2)	2(2)	6(1)	11(3)	5(0)	0	4(0)	10(1)
地震回数	443	1471	1429	1333	2230	1132	1281	2751
微動継続時間合計(h)	5.6	23	56	10.5	25.3	8.9	11.0	100.1

()内：爆発回数 地震回数：B点(地震+微動)

比較的穏やかな状態で経過したが、1月28日の爆発では、古里方面で火山礫により車8台のフロントガラスが破損した。4月13日の爆発から8月31日の爆発までの139日間爆発はなく、1955年の活動以来、第2位の無爆発継続期間となった。

伊豆大島（大島測候所）

火山性地震の月別回数は次のとおり（C点）。

月	1989/1	2	3	4	5	6	7	8
地震回数	71	23	> 6	30	68	15	15	6

カルデラ内が震源とみられる火山性地震は少ない状態が続いた。1月中～下旬に微動振幅が顕著に大きくなったほか、時々振幅が大きくなった。

噴煙活動は活発で、2月20日には噴煙高度1500mを観測した。測候所で時々硫黄の臭いが感じられた。5月頃から外輪山南西縁の噴気活動が次第に認められるようになり、7月からはやや活発化している。火孔底の一部で温度上昇が続いている。また、北西海岸で地下水温の上昇が認められる。

浅間山（軽井沢測候所）

月別の活動の推移は第4表のとおりである。

第4表 浅間山観測資料

月		1989/1	2	3	4	5	6	7	8
A	火山性地震	12	13	19	6	47	11	>4	>3
	火山性微動	0	0	0	0	2	3	0	0
B	火山性地震	210	99	180	102	285	110	>63	>98
	火山性微動	5	1	3	1	7	4	0	0
C	火山性地震	119	56	114	45	200	88	>40	>61
	火山性微動	1	1	1	1	6	4	0	0
D	火山性地震	7	5	8	3	41	18	4	>6
	火山性微動	0	0	0	0	1	1	0	0
E	火山性地震	59	35	57	28	173	59	11	>15
	火山性微動	1	0	0	0	6	2	0	0

地震活動は、少ない状態が続いた。

噴煙活動は、全般的に静穏であったが5月下旬に一時活発な日があり5月24日には噴煙高度 1000 m, 噴煙量4（やや多量）を観測した。そのほかの日は3（中量）または、それ以下であった。噴煙の色はすべて白色であった。

6月1日～2日に火口の観測を実施した。結果は次のとおり。

- (1) 前回（1988年10月）に比べ火口壁の崩落が目立った。特に、東から南側にかけての側壁の崩壊が激しい。
- (2) 南側側壁の崩壊した後（側壁上部）から噴気が認められた。
- (3) 噴気口の数、硫黄の付着等は前回と大きな変化はなかった。
- (4) 噴気口からの噴気量は少なく噴気力、噴気音も弱く特に大きな変化は認められなかった。

浅間山周辺の湧水の水温とpHの測定結果に、異常は認められなかった。

阿蘇山（阿蘇山測候所）

月別の活動の推移は第5表のとおりである。

第5表 阿蘇山観測資料

月	1989/1	2	3	4	5	6	7	8
噴火回数	0	0	0	0	0	0	2	1
地震回数	26	11	15	15	33	30	48	16
孤立型微動回数 0.5 μ 以上	1325	1460	2934	5821	3846	7419	7756	7104
連続微動平均振幅 (μ)	0.3	0.3	0.3	0.4	0.3	0.4	0.5	0.6

2月に長く続いていた湯溜りがなくなり、3月下旬から微動が急増し、その後も多い状態が続いた。6月からは殆ど連日火山灰を噴出するようになり、891火孔が形成された。7月16日に4年ぶりに噴火し、以後8月下旬現在までに5回の噴火があった。（詳細は本文参照）

月	1989/1	2	3	4	5	6	7	8
湯だまり温度 $^{\circ}\text{C}$	—	—	—	—	60	—	なし	なし

—は湯だまりが小さく測定不能。

十勝岳（旭川地方気象台，定期火山情報：7月10日，8月24日）

月別の活動の推移は第6表のとおりである。

第6表 十勝岳観測資料

月	1989/1	2	3	4	5	6	7	8
噴火回数	9	5	1	0	0	0	0	0
地震回数	174	76	17	22	5	25	25	17
微動回数	48	29	20	0	0	0	1	0

昨年12月16日に最初の噴火があり、12月の6回を含め3月5日までに21回の噴火があった。中には、小規模な泥流・火砕サージ・小型火砕流を伴うものがあった。また、噴火によって十勝地方を中心にたびたび降灰があった。

火映が12月27日から2月18日まで断続的に観測された。（詳細は前号を参照のこと）

遠望観測によれば、4月以降噴気量は少なくなったが、噴火前に比べるとやや多い状態が続いた。

7月6日～8日，8月22日～23日に現地観測を実施した。結果は次のとおり。

- (1) 62-I火口は、多量の噴出物におおわれ、火口は観測できないが、62-Iと思われる場所に多数の噴気口があり、活発な噴気活動を続けている。

- (2) 62-II 火口は、活発な噴気活動を続けており、火口は噴火によって拡大している。
- (3) 大正火口は、弱い噴気を続けている。その他は、昨年と特に変化はない。
- (4) 噴出物の多くは62-I 火口、大正火口、丸山-新丘間、グラウンド火口付近にある。

雌阿寒岳（釧路地方気象台、定期火山情報：5月26日、8月10日）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1989/1	2	3	4	5	6	7	8
地震回数	12	24	12	63	16	7	16	18

- (1) 火山性微動は観測されていない。
- (2) 遠望観測では風の弱いときに噴煙の高さが500mに達したことがある。
- (3) 5月23日～24日、8月7日～9日に現地観測を実施した。結果は次のとおり。

3-1 ポンマチネシリ火口（本峰）

第1火口の火口底にある噴気孔は、流入した土砂によって昨年9月よりも更に浅くなったが、火口底南壁で噴気孔の範囲が多少拡がっており高温の状態が続いている。依然として高温の噴煙を噴出している。第4火口は、高温で活発な噴気活動が続いている。噴気温度は、5月は昨年秋と大きな変化はなかったが、8月にはやや低くなった。

3-2 中マチネシリ第3火口

5月、第3火口全体としては、噴気孔に大きな変化はない。8月、雲のため観測できず。

樽前山（苫小牧測候所、定期火山情報：5月26日、7月27日）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1989/1	2	3	4	5	6	7	8
地震回数	6	19	2	4	4	>2	0	3

- (1) 火山性微動は観測されていない。
- (2) 遠望観測では、噴煙に大きな変化はない。
- (3) 5月24日～25日、7月18日、24日に現地観測を実施した。結果は次のとおり。

3-1 A火口では、臭気の強い噴煙をあげ活発な噴気活動をしている。

3-2 その他の噴気孔からも有毒な火山ガスを含む高温の蒸気を噴出している。

3-3 各噴気孔の噴気量、噴気温度、ドーム周辺の地中温度及び火山ガスの測定値はこれまでと大きな変化はない。

3-4 5月の現地観測で、ドーム南東亀裂の壁面の一部が上部から下部にかけて崩落していたのを認めた。

有 珠 山（室蘭地方気象台，定期火山情報：5月12日，8月3日）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1989/1	2	3	4	5	6	7	8
地震回数	6	6	5	10	11	10	8	9

遠望観測では，噴煙に大きな変化はない。

5月10日～11日，8月1日～2日に現地観測を実施した。結果は次のとおり。

- (1) 昭和新山 土砂や岩が崩れやすい状態になっている。ドームの北側で一部崩壊が認められた。亀岩の噴気温度は5月266℃，8月268℃。
- (2) 四十三山 噴気や周辺の状況に変化はない。

北海道駒ヶ岳（森測候所，定期火山情報：5月25日，8月4日）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1989/1	2	3	4	5	6	7	8
地震回数	>2	>4	3	4	1	1	2	0

遠望観測では，噴煙，その他特に変わった現象は観測されていない。

5月23日～24日，8月1日～2日に現地観測を実施した。結果は次のとおり。

- (1) 大正火口付近の噴気地帯の最高温度は5月95℃，8月94℃で全般にやや高目の状態となっている。
- (2) 昭和火口，安政火口及び亀裂の所々では，弱い噴気活動を続けている。
- (3) 山麓温泉の状態は，特に変化はない。
- (4) 剣ヶ峰，砂原岳及び火口，亀裂では岩石が崩れ易く，また火口，亀裂付近では高温の蒸気や火山ガスがでている。

吾 妻 山（福島地方気象台，定期火山情報：6月14日，8月11日）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1989/1	2	3	4	5	6	7	8
地震回数	≥1	0	0	0	≥2	2	0	0

遠望観測で噴煙の出ているのを確認できた日は少なく，噴煙量も小量であった。

6月2日，6日，7月31日～8月1日に現地観測を実施したが，異常は認められなかった。

安達太良山（福島地方気象台，定期火山情報：6月14日，8月11日）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1989/1	2	3	4	5	6	7	8
地震回数	0	1	0	≥1	0	1	0	0

6月5日，7日～8日，7月26日，8月3日～4日に現地観測を実施した。結果は次のとおり。

池ノ平西方登山道付近の噴気地帯では，地熱の高い状態や噴気活動が続いており，また，鉄山南斜面登山道付近の噴気地帯では引き続き亜硫酸ガスが検出された。

磐梯山（若松測候所，定期火山情報：5月31日，8月11日）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1989/1	2	3	4	5	6	7	8
地震回数	≥22	11	1	≥12	12	≥23	9	35

5月24日～25日，8月3日～4日に現地観測を実施した。火口壁の崩壊が進行しているが，その他には特に異常は認められなかった。

那須岳（宇都宮地方気象台，定期火山情報：5月26日，8月10日）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1989/1	2	3	4	5	6	7	8
地震回数	39	14	32	69	50	46	52	46

7月7日22時37分頃那須岳山麓で震度3～4と推定される火山性地震があった。

5月22日～23日，8月3日～4日に現地観測を実施した。結果は次のとおり。

8月の殺生石地区の硫化水素ガス，亜硫酸ガスの濃度が，5月に比べやや高くなっていたほかは，特に異常は認められなかった。

草津白根山（前橋地方气象台，定期火山情報：6月9日，8月30日）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1989/1	2	3	4	5	6	7	8
地震回数	13	13	4	>21	9	>7	15	14

- (1) 1月6日未明から7日にかけて，振幅の小さい連続火山性微動が観測された。このため，1月7日に臨時火山情報を発表した。
- (2) 遠望観測で表面現象に異常は認められなかった。
- (3) 現地観測を6月1日～2日，8月21日～22日に実施したが，特に異常は認められなかった。

御岳山（松本測候所，定期火山情報：5月29日，8月23日）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1989/1	2	3	4	5	6	7	8
地震回数	264	206	256	202	212	>183	>145	130

- (1) 火山性微動が1月に1回観測された。
- (2) 火山遠望観測装置による遠望観測で観測された噴煙は，全て白色で量はきわめて少量であった。
- (3) 5月25日～26日山麓における湧水観測と遠望観測，8月18日～19日に山頂の現地観測を実施した。

昨年9月と同じ場所（山頂の西側3ヶ所，地獄谷）からは，大きな音を伴って，白色の噴気が出ており，強い臭気を発し，周辺には硫黄が付着している。

三宅島（三宅島測候所，定期火山情報：2月28日，6月9日）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1989/1	2	3	4	5	6	7	8
地震回数	181	13	25	10	9	5	8	3

2月22日～23日，6月8日に雄山の現地観測を実施した。結果は次のとおり。

- (1) 6月の噴気温度，地中温度が2月に比べて若干高めであった。
- (2) 噴気量は殆ど変化はなく，異常は認められなかった。
- (3) 雄山山頂の噴気地帯では，炭酸ガス以外は観測されなかった。
- (4) 新鼻の新しい火山砕屑丘の地中温度の高温部は認められなかった。

雲仙岳（雲仙岳測候所，定期火山情報：4月10日，8月10日）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1989/1	2	3	4	5	6	7	8
地震回数	27	29	37	28	16	19	39	17

7月13日に有感地震が3回あったが，全般に穏やかであった。

4月5日，8月7日～8日に雲仙地獄，小浜温泉の現地観測を実施したが，特に変化は認められなかった。

霧島山（鹿児島地方気象台，定期火山情報：6月7日）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1989/1	2	3	4	5	6	7	8
地震回数	≥14	10	7	15	4	9	7	6

4月25日～26日に高千穂御鉢・新燃岳，5月30日に山麓周辺の噴気地帯の現地観測を実施した。御鉢の第6火孔で極微量の亜硫酸ガスが検出（前回は1987年7月に極微量検出）されたが，その他に特に異常は認められなかった。